

## 本学教員執筆書籍の紹介

吉田 晃敏 著

### 格差なき医療 — 日本で世界最高水準の治療が受けられるようになる日

講談社 定価1,575円(税込) 2007年4月28日発行

高橋 淳 士

本書は、本年7月より第7代 旭川医科大学学長となった吉田晃敏先生が、精力的に取り組んできた遠隔医療について執筆されたものです。巻頭には、あの聖路加国際病院理事長の日野原重明先生が推薦の言葉を寄せてくださり、週刊誌「サンデー毎日」の書評（7月8日号）にも取り上げられるなど、話題の書であります。

吉田先生が小中学生時に住んでいた北海道の過疎地において、病院まで遠い道のりをかけて通院するという現実を原体験とし、吉田先生は、「どこに住んでいても、誰もが世界最高水準の医療を受けられるように」と願って、眼科教授の就任から眼科学以外の生涯の仕事として遠隔医療に取り組んでいます。

遠隔医療の本格的な第一歩がスタートしたのは、1994年10月21日、旭川医科大学眼科学教室と余市協会病院眼科の間を公衆回線で結び、伝送されてきた患者の眼のカラー動画の映像を見、網膜硝子体専門医として診断をアドバイスした時からです。当時は1秒間に10コマを送受信するのが精一杯で、ぎこちない映像からのスタートではありましたが、その後の技術革新による改良により、現在では超高速でなめらかな動きの画像がリアルタイムに送られ、かつ、送られてきた画像に印をつけて遠方にいる患者さんに所見の説明することも出来ます。さらに離島との交信のために人工衛星を利用した遠隔医療システムの開発や、臨場感のある立体ハイビジョンの手術映像を、旭川医大とタイやシンガポールの病院との間で送り合うことが可能となるまでに育て上げてきた道のりを、様々なエピソードと共に回顧しています。

遠隔医療システムが全道に整備されれば、離島に住む人にも、酪農地域に住む人々にも、都市部と同様な医療やアドバイスが受けられます。遠い道のりや雪道

の中を都市部に出る必要が無く、その疾患の最先端治療を患者さんが受診可能な最寄りの施設で受けられるという大きな利点があります。また、その土地の医師も必要な時にその道の専門家に自分の患者さんを診てもらえることが出来、その場で最適なアドバイスが得られます。吉田先生は、大学教授としての激務、多くの網膜硝子体手術を執刀する日々から時間を割き、強い信念で遠隔医療プロジェクトに取り組むにつれ、次第に国から予算がつくようになり、ついには1999年7月、旭川医科大学に国内初の専門施設、遠隔医療センターが完成しました。衆議院議員・武部勤氏（元自民党幹事長）は、9月15日の吉田学長就任祝賀会において、吉田教授が旭川医科大学の遠隔医療システムについて、是非、一度ご説明したいと、議員が旭川空港から旭川市街に向かうタクシーの中においてビデオで説明したエピソードを披露し、吉田先生を「情熱と行動の人」とであると評しました。

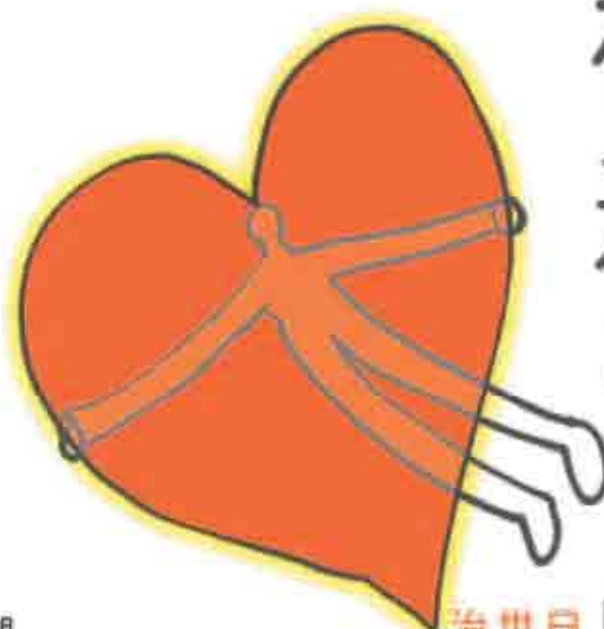
現在では、旭川医科大学病院に遠隔医療センターが定着し、眼科、病理部、放射線科をはじめ多くの診療科等で利用され、医療格差の是正、医療費の抑制に大いに役立っています。さらに、住民サービスとして『北海道メディカルミュージアム』にも力を注いでいます。最先端の治療、病気の予防に役立つ医学の話題を、噛み砕いてわかりやすく提供しているもので、道内の保健センターや公民館に設置したディスプレイで見ることが出来る仕組みです。これは、大学医師が地方に講演に出かけることなく、健康教育、疾病予防に貢献でき、また旭川医科大学を道民に身近に感じてもらえる素晴らしい取り組みです。

今までに糖尿病網膜症、網膜剥離の患者さん、五千人以上の手術を行ってきた吉田先生の提言は、これから目指すべき日本の医療のあり方にきわめて示唆を与

えるものです。「カルテは医者のものではない。カルテの開示」。「手術の公開」。「学問を越えた治療の使命」。「電子カルテ」。そして遠隔医療によって実現したい項目として、「いつでも、どこに住んでいても、必要とする専門医療（先進医療）を受けることができるユ

ビキタス遠隔医療」、「在宅でも、救急時にも、質の高い効率的な医療」、「健康教育（健康日本21）の促進」を挙げています。これらはまさに東北6県よりも広大な地域に住む我々道民の悲願でもあります。

(眼科学講座)



# 格差なき医療

日本中で  
世界最高水準の  
治療が受けられる  
ようになる日

旭川医科大学教授・  
遠隔医療センター長  
吉田晃敏

## 「病気になってもいい国」への処方箋!

止むことを知らない熱意と使命感。  
日本の多くの医療に関心をもつ専門家や、  
看護師、訪問看護師、さらには一般の人々の間にも広く読まれることを念じます。

聖路加国際病院理事長・名誉院長

### 日野原重明氏推薦!!

講談社